

平成22年度

## 登別市図書館協議会会議録

開催日時 平成23年2月23日（水）午後4時00分

会場 登別市立図書館 3階会議室

出席者 《委員》問谷英克委員長、合田美津子副委員長、松原條一委員、街道重昭委員、須藤和恵委員

《図書館》玉田光司教育部次長、綿貫亨図書館長、土生恵子管理主幹、永森寛子主査、

閉会 午後5時00分

### 議案

#### (1) 情報提供

○平成22年度からの取り組みについて

- ・あかちゃんふれあいえほんについて
- ・「ほん」との出会い、ふれ愛、語り合いについて

○図書貸出カードの広域連携について

○平成23年度予算について

#### (2) その他

#### ◇ 土生主幹

本日はご多忙のところ皆さまご出席いただきありがとうございます。最初にご出席されている委員の皆さまをご紹介します。まず社会教育関係ということで松原委員様、学校教育関係ということで問谷委員様、社会教育関係ということで合田委員様、学識経験者ということで街道先生、「家庭教育の向上に関する活動を行うもの」という立場で須藤委員様、よろしくお願ひします。続きまして事務局を紹介させていただきます。教育部次長、玉田です。図書館長、綿貫です。図書館主査、永森です。私図書館の管理主幹、土生と申します。どうぞよろしくお願ひします。では会議に先立ちまして、玉田教育部次長からごあいさつを申し上げます。

#### ◇ 玉田次長

今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。久方ぶりの図書館協議会となりました。本当はもっと早く開きたいと思っていたのですが、なかなかうまくいかず今日の開催ということになりました。ただこのなかで、図書館に長く携わってきた司書の方を館長として、初お目見えの機会となりました。綿貫亭さんです。みなさんで館長を支え、協議会のみなさんのご批判・応援等をいただいて図書館を良くしたいと思っております。綿貫館長のことばのなかに、登別の図書館は、建物という意味では古いけれど、そうしたなかでもいろいろなことをやって頑張っているとありましたが、特に22年度は土生主幹、永森主査、嘱託職員、臨時職員の方々の頑張りでさまざまな行事に取り組んでまいりました。あかちゃんふれあいえほん、これは他のところは百万、百五十万という予算をかけて本を買っている。しかしうちは予算の無いなかでやっております。それから読み聞かせ、須藤さんなどボランティアの方々のお力を借りてやってきました。ほかにもDVD上映会や工作など2週間にいっぺんくらい、このホールを使用してやっております。それから新たにしかけ絵本の展示、宮西達也先生の講演会、山下先生のふくろう文庫の講演などを実施した結果、11月の図書館まつりは今までに無い賑わいとなりました。これは女性ばかりの中で無理を言ってやってもらい申し訳なかったのですが、あれもこれもとやってもらってそれがじわじわと広がってきたのではないかと思っています。そうした良いところは館長には引き継いでいただき、同時に足りないところをこつこつと埋めていって図書館というものを良くしていきたい。そのために図書館協議会のなかで皆さんに議論を頂ければありがたいと思っております。わたしのあいさつの後、綿貫新館長の自己紹介をさせていただきます。本日お集まりいただき本当にありがとうございます。

◇ 綿貫館長

はじめまして、2月1日付で館長の職を拝命しました綿貫亭と申します。どうぞよろしく申し上げます。私は埼玉県と東京都の図書館で18年ほど司書として勤務して参りました。ほぼ全ての図書館業務を担当しました。なかでもレファレンス・参考調査業務では埼玉県の専門委員も経験しました。そういったことを徐々にこの図書館で活かせればと思っておりますが、まずはこの図書館の良い面や良い歴史を保っていきたいと思っております。確かに建物の古さは目立つのですが、いま次長のお話にありましたように、多くの行事を行ってとても活発に活動している図書館ですので、その伝統はこれからも残していければと考えております。その上で、私なりに考えていること、気がついたこと、やりたいことを、あせらず一歩ずつ取り組んでいきたいと考えております。いろいろこれからお力添えをお願いすることもあろうかと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

◇ 土生主幹

では、これより協議会に移らせていただきます。なお会議録作成のため会議内容を録音することにご了承をお願いします。

では、最初の議案、(1)会長および副会長の選出に移らせていただきます。会長および副会長の選出は「登別市図書館条例第9条第1項の規定」により、委員の互選により定めることとされておりますが、どのような方法で進めてよろしいでしょうかお諮りします。

◇ 松原委員

事務局に一任します。

◇ 土生主幹

事務局一任とのお言葉がありましたので、では事務局提案をさせていただきます。会長には登別中学校校長問谷英克さん、副会長には「のぼりべつの図書館を考える会」会長の合田美津子さんをご提案します。いかかでしょうか

◇ 委員一同

異議なし

◇ 土生主幹

それでは会長には問谷委員、副会長には合田委員に決まりましたので、今後の進行をお願いします。

◇ 問谷委員長

はい、登別中学校の問谷です。どうぞよろしくをお願いします。

それでは会議議案の情報提供の(1)「平成 22 年度からの取り組みについて」事務局からご説明願います。

◇ 土生主幹

はい、私からご説明します。それでは、平成 22 年度から取り組んでいる新事業についてご報告します。「あかちゃんふれあいえほんカードの配布について」ですが、図書館ではこれまでも健康推進グループとの連携により母子手帳交付時に赤ちゃんに合う絵本のリーフレットを渡していました。今年度からは健康推進グループが所管する赤ちゃんの 4 ヶ月健診時に「ブックスタート」の説明やあかちゃん向け絵本を紹介するリーフレット、後日図書館に積極的に来館してもらうように「あかちゃんふれあいえほんカード」を作成し渡しております。これらは図書館・子育てグループ・健康推進グループとの連携で実施しております。7 月中旬から 4 ヶ月健診時に 50 冊ほどの絵本を持って行って健診会場で、絵本にふれていただきながら「ブックスタート」の意義を伝え「あかちゃんえほんカード」を渡し図書館への来訪を促しております。お手元にお配りしたカラープリントが配布しているカードでございます。実施状況といたしましては目的が健診であることからお母さんたちに余裕を持ってブックスタートの意義を伝えるのは難しいものがあります。しかし「あかちゃんふれあいえほんカード」を持って図書館を訪れる親子が 2 組 3 組と徐々に現れております。これとは別に子育て支援センターでの 8 ヶ月健康相談に出向き読み聞かせや手遊びなどを実施しています。これからも関係する担当グループとの連携を図りながらブックスタートの取り組みを進めていきたいと考えています。

つぎに「本との出会い、ふれ愛、語り合い」についてです。これもお手元に事業の要旨をまとめたプリントをお配りしてありますのでご覧ください。これは平成 22 年度の「明日のまちづくり事業」で採択された事業で、赤ちゃんからお年寄りまで全ての登別市民を対象に、本との出会い、ふれあいを通して感性を豊かにするとともに、図書館への関心を高めることを目的に実施したものです。事業全体を回に分けてポスフル登別をメイン会場として実施しました。

第一回は 5 月 26 日から 30 日までの 5 日間で、道立図書館から借りた「しかけ絵本」180 冊をポスフル 2 階展示室に展示し絵本展を開催し 5 日間で 366 名の入場者がありました。

29 日には午後から同じくポスフル 2 階で、おはなしリボン、おはなしポケット、おじさんズなどボランティアグループによる絵本の読み聞かせを実施し、保護者も含め約 60 名の出席がありました。30 日には絵本作家宮西達也さんの講演会と絵本の読み聞かせがありました。参加者は保護者も含め約 110 名でした。この事業の実施には会場の設営・絵本展示の会場監視員などいろいろな場面でボランティアの方々の協力をいただき実施することができました。

第二弾の事業は 7 月 28 日に、絵本屋「ぽこぺん」店主飛島詩子さんの講演会と、28 日から 8 月 6 日まで絵本作家本田哲也さんの絵本原画展とお絵かき教室・工作教室を行いました。本田哲也さんは 7 月 31 日に富士保育所で絵本の読み聞かせとお絵かき会を行い、保育所児童に大変喜ばれました。これら第二弾の催しにも 400 名を超える参加がありました。

第三弾の事業は 8 月 18 日にライブラリーツアーを実施しました。これは苫小牧市立中央図書館と恵庭市立図書館を視察し、図書館に対する関心を高め登別市の図書館のあり方を市民に考えてもらう目的で実施しました。参加者は市民大人 10 名、幼児 4 名でした。

第四弾は「ふくろう文庫特別展 in のぼりべつ」ということで広域連携事業として故宫博物館の名品の複製品を展示することができました。10月25日から31日までポスフル登別を会場に実施し1020名の入場者がありました。期間中室蘭ふくろう文庫の代表の山下敏明さんの講演会を実施しました。期間中、山下代表は連日会場にて美術品の解説をしてくださいました。以上です。

◇ 問谷委員長

はい、ただいま事務局のほうから二つの事業の説明がありましたが、委員の方々質疑等ありましたらお願いします。

◇ 須藤委員

一点確認です。「あかちゃんふれあいえほん」についてなんですが、前回、「これをスタートさせた際一度アンケートをとることも考えたらいかがですか」とたしか松原委員がおっしゃったと思うのですが、今後の見通しとして何年後くらいになったらやってみようかなと今現在イメージしているのでしょうか？

◇ 土生主幹

アンケートについては申し訳ないですが、まだ今のところ予定していません。

◇ 問谷委員長

未定ということでしょうか

◇ 玉田次長

もう一年状況を見たいと思っています。アンケートというわけではないですが、3、4組お母さん方が図書館に来ていますのでそのときにいろいろお話を聞きたいと思っています。

◇ 須藤委員

これは情報で、恵庭でブックスタートをした結果についてのアンケートをおとこの日にいただいて、わたしもまだ全部見切っていないのですが、やってみてどうだったかがのっています。部分的に見てみますが3ページ目ですが、ここでは(注:恵庭市では)本を差し上げているようですが1歳6ヶ月にアンケートをとったということなので4ヶ月や7ヶ月健診の後ということになりますが、ブックスタートを受けた後、「子どもに読み聞かせをしている」「前からしている」はそれぞれ40%を超えています。増えています。恵庭は転勤の方も多くブックスタートを受けていない1歳6ヶ月の子どももいて、それを見ますと「現在読み聞かせをしている」パーセントは低くなっています。これを見るとやはり本ではないですがなんらかのアクションを起こすことが、その後の読み聞かせにつながっているのかなと思いましたがお伝えします。また「ブックスタート後、変化があったか」というアンケートを見ると、ここは本を貰えるので貰った本を読むようになった、そして家にある本も見erようになった、本を買うようになった、図書館に連れて行くようになった、という変化が出ている。ブックスタートをやることの意義がはっきりと出ている。あと恵庭の人が言っていたが、兄弟も本を読むという相乗効果も現れているとのこと。登別も何年後かでもいいからやった成果を形に表して欲しい。実際本を渡さなくてもこんな効果があったということを示せると良いと思ってお伝えしました。

◇ 問谷委員長

貴重な資料の提示ありがとうございました。事務局のほうでもぜひ参考にして欲しいと思います。

◇ 合田副委員長

いいでしょうか、去年に木村さんたちとブックスタートの会議をしたのはどうなっていますか。

◇ 玉田次長

あれは6月か7月ですか、幼稚園協議会ですね、そこで話をしたとき、「うちのほうとしてはお金をかけないでこういう形で7月から始めました」ということをお話しました。恵庭のように本をあげないのかというご不満はいただきました。それについては、また折を見ながらどういった方法が良いのか協議して決めていき

ましようということになりました。

◇ 合田副委員長

それについてはなにか具体的な対策は何か考えているんですか。

◇ 玉田次長

いや、いまのところは一回協議したいと思っています。

◇ 合田副委員長

それについてはみんな不満に思っている。理解ができていないのであれば、そのままにしないで、関心を持っている人は確実に増えているわけですから。行政側としてはそれなりの考え方があったとしても、その説明も含めてきちんと話し合いの場を持つべきだと思います。

それから事業について、今回の事業、私はずっと言い続けてきて、「予算があればいろいろな事業ができるのに」と。特別枠ということで単年度で終わるのかなと思っていたら、今年も予算がついたので、今年はどうな予定を組まれるのでしょうか。事業案は。

◇ 玉田次長

今の時点で確定していることはライブラリーツアーをやりたいと思っています。それとまた絵本関連の講演会をできればやりたいと。それと新図書館長と図書館協議会を含めてどんな事業をやるのかいろいろなご意見をいただいてその中で決めていきたいと考えています。ただ予算的には70万です。去年を見るとこれでけっこういろいろなことができたので…。

◇ 合田副委員長

だからそれは言ったでしょう、「できる」と。「百万もいらなくてもできるから」と。「予算をつけてまわしてくれ」と、ずっと言ってきたのです。やるのは大変だと思います。慣れていないし。ただ、同じようなことだけじゃなくて新しいこともやって欲しい。私もすこし考えがありまして絵本の大御所である広瀬恒子さんを一度登別に呼んで欲しい。お金があるうちに予算があるうちに呼んで欲しい。北海道では札幌と函館と旭川には来ていますが、この辺にはまったく来ていない。もしいらっしゃれば相当な人が集まると思いますし、一度基本をきちんと教わったほうが良いと思いますから。絵本に対し大変力のある先生ですから推薦します。

◇ 問谷委員長

はい、いま予算にもすこしふれましたが次年度の行事の見直し、そして予算あるうちに講師の方の招請をお考え願いたいという要望が出ましたのでよろしくお願いします。

それでは情報提供の(2)の「図書館カードの広域連携について」に移りたいと思います。事務局から説明願います

◇ 綿貫館長

はい、それでは私のほうからご説明させていただきます。この「図書館カードの広域連携」ですが、登別市と室蘭市、伊達市の3市が定住自立圏の取り組みとして、現行の「図書利用カード」で3市の図書館を相互に利用できるようにするものです。これを導入することによって期待される効果としては、システムを3市が共同で構築して運営することによってコストメリットが得られるということがあげられます。初年度のシステム購入費が、現行システムの継続と比較して1千万円ほど下がります。また次年度からのシステム保守管理料も現行の年2,454,000円から745,000円になり、大幅な経費節減が期待できます。また、市民が一枚のカードで3市の図書館から図書を利用できるということは市民の利便性の向上、サービスの向上につながるものと期待されます。利用者は各市の図書館から読みたい本を選び、最寄の図書館で貸出と返却ができるようになるためです。一方で課題もあると考えられます。3市の図書館の間で本を搬送する物流の業

務が発生するため、これがどの程度の量になるのか、あまり利用がないのであればこの市もぎりぎりの人員でやりくりしているのが実情ですので、費用対効果の面からみてどうなのか、これは実際に稼働しないと読めない部分だと思われます。実際にシステムの運用が走り始めてから状況を見て修正を加えていく必要があるかと考えています。このシステムの導入時期ですが、現在伊達市が約 11 万冊の本のバーコードの張替え作業というのをやっております。これは登別市と伊達市の図書館のバーコードが重複しているため、現状ではシステムの統一ができないためで、伊達市さんがこの張替え作業をやってくださっています。これが完了するのが今年の 10 月、11 月ごろと見られておりますので、それ以降になろうかと思われます。以上です。

◇ 問谷委員長

はい、ありがとうございます。ただいま「図書カードの広域連携」の説明がありましたが、このことについて質疑等ありませんか。

◇ 合田副委員長

だいたいどれくらいかかるんですか

◇ 玉田次長

金額でしょうか。金額は細かい話をしますと 3 市の共同システムで登別が払う分が約 500 万円、それとは別に登別が購入する機材、パソコンやプリンターに 700 万、併せて約 1200 万です。前のは 5 年の契約で 2500 万ほどかかっていました。そしてこれの保守に毎年 250 万ほどかかっていました。ですので保守を含めれば 1 千万ほどで、3 市で薄く広く負担するメリットが出てきます。それと専門家がサーバーを管理することになりますのでセキュリティ向上も図れます。

◇ 合田副委員長

伊達の図書館は大滝との合併で苦労していると聞きます。配本やなにかで。たとえば図書館の本が他所からのニーズによって提供できないという、そういうときはどうするのか、ちょっと心配してるんです。

◇ 玉田次長

はい、例として「1Q84」のようなベストセラー本をインターネットに詳しい人はぱっと検索して予約できますが、一方で登別に多い高齢の方、ネットは詳しくないけどこつこつ毎日図書館に通ってくる人が「あれ、いつも本が無い」ということも起こりえるんですね。

◇ 合田副委員長

そうなんです。それが心配なんです。地域のニーズ、借りたい人が借りられなくなるということがないように細やかな対策や配慮を考えているのかどうか。どっと来ますからね、ベストセラー本の予約は。うちはまあ 1 冊しか買わないからベストセラー本は。

◇ 玉田次長

そういうことをちゃんと 3 市で話しあい、できれば 3 月中に担当者が話し合い、例えばベストセラー本については 1ヶ月間は市内で留め置いて実際に図書館に来た人を優先するとか、そういう条件を細かく設定していかないといけない、またそれに合わせてシステムをどう変えるか協議していきたいと思っています。

◇ 合田副委員長

合併した事例をよく研究して課題を吸収して行ってください。

◇ 問谷委員長

3 市の話し合いはこれから始まるということでしょうか。

◇ 玉田次長

はい、細かい話し合いはこれからです。

◇ 問谷委員長

そうですか、ではその中で、今出た意見や要望をよく話し合ってください。

◇ 玉田次長

はい、ちょっと付け加えますが、いま図書館システムはどこも大体中身は同じなんです。むしろ貸出にどういう条件をつけるか、冊数や日数どうするとか、こまかい条件を決めていってそれにシステムを合わせていく、ですからこれからの細かい話のほうが大事になってきます。

◇ 問谷委員長

はい、それではこのことについて他になにかありますか。なければ、情報提供の(3)平成23年度図書館予算に入ります。事務局から説明願います。

◇ 綿貫館長

はい、お手元に「平成23年度予算内訳」をお配りしていますのでご覧ください。こちらの表で平成23年度と22年度で大きく異なっている箇所が何点かありますのでご説明します。まず「賃金」ですが平成23年度は計上されていません。一方で「報償費」が33万2千円増額しております。これは先ほどご説明した「ほんとの出会い、ふれ愛、語り合い」事業の予算項目の組み替えによるもので、具体的に申し上げますと、講師の謝金、会場監視員の謝金を賃金から報償費に変えたものです。それから「委託料」の項目が121万4千円、大きく増額しておりますが、これはBM業務の委託料の増額によるものです。それから「需用費」のカッコ内の数字が図書購入費となります。平成22年度872万円が平成23年840万円と32万円減っていますが、これは平成23年1月25日の第一回臨時市議会において、国の地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)を活用し図書購入費が70万円補正され、先取りの支出となったので、次年度である23年度において32万円が減額されたものです。

続きまして、次に23年度の継続事業についてご説明させていただきます。継続事業は2つあります。まず「あかちゃんふれあいえほんカード」の配布。さきほど次長からお話がありましたが当面はこのやり方で行い、さきほどアンケートというお話もありましたが、利用者の声や効果などを検証してより良い方法を見つけていきたいと考えております。2つ目は「ほんとの出会い、ふれ愛、語り合い」事業、これも継続して実施します。内容については、継続して行うライブラリーツアーのほか、合田委員、次長のお話にもありましたが、新規の内容については新年度の図書館協議会等で委員の皆様のご意見等を伺う予定です。以上です。

◇ 問谷委員長

はい、いま事務局より平成23年度予算と継続事業についてご説明がありましたが、質疑等ありましたらお願いします。

◇ 合田副委員長

はい、「光」の交付金、せっかくやっとならしたのに新年度でごっそり減らされる、まあやるだろうなどの予測はあったんですが。納得はできませんけど。これ、来年度は復活してくれるんでしょうか。このまま減額だなんてことが無いように、どのように行政の手腕で取り返すと考えてるんですか。

◇ 玉田次長

はい、われわれとして当然この32万、不満だったんですけど、図書館ばかりでなく他のところも削られているので最終的には仕方がないと思っておりますが、来年、「光をそそぐ」がなければ削られなかった額でスタートすると、予算付けはそこから始めたい。で、そこからは引かないでなんとか頑張りたい。

◇ 合田副委員長

ぜひこれは勝ち取ってもらいたい。で、この資料費なんですけど、いま結構寄付金をいただいているので、

来年「光をそそぐ」が無くなった後、この 32 万円を事業費に回して欲しい。図書費を削っても事業費をとにかく確保しろとずっと言ってきましたでしょ。それに回せるように財政折衝を玉田さんの腕の見せ所で、今から頑張っで欲しい。今からただちに「協議会でこういうこと言われた」と根回しておいてください。そうでないと絶対来年付かないですよ。

◇ 問谷委員長

予算要望のこと、早めに根回して削られないように。それでは予算に関してはよろしいでしょうか。それでは(3)の「その他」に入りたいと思います。委員のみなさま、今までのことを含めてでもよろしいですし、新しい件でも結構です。なにかありますでしょうか。では事務局からはなにかありますか。

◇ 永森主査

はい。それでは事務局のほうから、「平成 21 年度学級文庫団体貸出利用に関するアンケート結果」の報告をさせていただきたいと思います。この学級文庫の 21 年度のアンケートに付きましては 4 学校 36 クラスから回答をいただきました。そのなかにつきましては複数回答もありますが、結果報告につきましては横にクラスの数字でこういう結果が出ております。問 4、問 5 につきましては別紙裏を見ていただきたいと思います。ここに書かれていることがそれぞれ学校の担任から出てきた意見です。団体貸出に「学級で子どもたちが喜んでいいる」といった意見をいただき、最終的には今後もこのシステムは続けていただきたいと思います。今年度につきましては 21 年度より 4 学校からさらに 2 学校増え、これによりクラスも 12 クラス増えました。現在は小学校 8 校ありますが 6 校のご協力を得まして 48 クラスに団体貸出しております。残る 2 校につきましてもできればご協力いただいて、あかちゃんふれあいえほんや読み聞かせとあわせて読書環境を整えていければと認識しておりますので報告させていただきます。

◇ 問谷委員長

いまの点につきまして何かご意見ありますか。

◇ 須藤委員

意見ではなく感想になるのですが、私が出会う子どもたち、幼稚園なんですけれど、図書館の本の後ろのラベルを見たとき「あ、こぐま号だ」という子がいるほどで、それだけ子どもたちには浸透しているんだなと。図書館の本というイメージはないけれど「これはこぐま号の本だ」という。これを一冊家にもって帰ったらお母さんが見たときに「これは図書館の本だね」となって、即効性はないけれど、図書館が浸透していくことになるのではと思います。この活動はぜひ続けていっていただきたい。

◇ 合田副委員長

感想ですが、「子ども読書活動推進計画」、あれを作ってどんなことに取り組むのかずっと推移を見ていたんですが、「作りました。何もしません」ということが多かったなかで、着実に事業が取り組まれているのがうれしいなと思います。条件が厳しく制約はあると思いますが、こうやって目に見える形で数値化されたり文字化されて私たち委員のところに報告されるというのはずっと言ってきて以前よりずっと良くなったと思います。評価したいと思います。

◇ 須藤委員

意見ではないのですが、去年もコメントさせていただいて、「図書館の本をいろいろな支所で返せるよ」というのが知られていないという話をさせていただいたんですが、今回、図書館で「道立図書館の本も借りられます」とのポスターを見て「知らなかった」という人がやっぱりいました。で、あれを見て「知ってた須藤さん？」と言われたくらいで、去年もPRが必要だとそう言ったのですが、折に触れて「図書館はこんなことをやっています」「こんなことができます」とPRして欲しい。二点目は、図書館に足を運ばない方が、「実は図書館のホームページの協議会の会議録を読んでいます」とおっしゃってました。「ちゃんと話し合っ

いるんですね」と。なので、意外と興味を持って読んでいる方がいることを皆さんにお知らせしたいと思います。以上です。

◇ 合田副委員長

もっとホームページでこういう協議会もやってますと事業なども乗せて、情報発信力を高めて欲しい。もう電子図書などの時代ですよ。こういう時代にそこをどう高めていくか努力して欲しい。

◇ 玉田次長

はい、今回、実は「図書館協議会公開でやってます」というのも図書館に詳しい新館長の提言で、私、実は知りませんでした。

◇ 合田副委員長

公開ですよ。前からやってますよ。来ないですけど。

◇ 永森主査

初回の時、1、2名、それ以来ふつつり切れてますけど。

◇ 合田副委員長

だからそれもPRが足りない。

◇ 問谷委員長

はい、図書館のPRよろしくお願いします。テレビでは電子書籍のコマーシャルがすごい時代になってきましたが、一冊の本を手にとってじっくり読む、そういう機会を子どもたちに与えて欲しい、あるいは赤ちゃんに母さんが与えて欲しいと思います。ほかにご意見等がなければ、以上で本日の協議会を終了したいと思います。よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。